

秀作

# 私のチューコク社

鹿児島県・南さつま市立加世田中学校 1年 中園 友美

私がお社を作るとしたら、断然「中国社」です。国の字の点がないのは、誤りではありません。となりの国の中国とまちがうといけないので、国の字の点を取って、「チューコク」と読みます。

そもそも「中国」とは何だと思いませんか？ 実は、私の家には小さい時から少しずつ増やして大切にしている、250のぬいぐるみがあります。いいえ、私と姉にとっては、250の生きたキャラクター達です。

その250人のぬいぐるみ達は、大きさ別に、三つの国に分かれて暮らしています。「小さい国」「中くらいの国」「大きい国」です。中くらいのぬいぐるみが一番多く、キャラクターもはっきりしています。その「中くらいの国」を「中国」と呼んで一番親しんでいるのです。

「中国」のキャラクター達には、甘えんぼう、やんちゃ、ちょい悪、かわいい、まじめ、ナルシスト、夢想家等、様々な150の性格があり、毎日色々な行事や出来事の中、日々成長しながら仲良くケンカして暮らしています。

私達は、そんな出来事を、「中国新聞」として発行したり、行事を写真にとったり、様々な小道具や、街の見取り図を描いたりして、遊んできたのです。

そうしているうちに、この「中国」の国民をもっと広い世の中へ出してあげたいと思うようになりました。

ここで「中国社」の出番です。「中国社」ではまず、パソコンや携帯のサイトで週に1回ネット新聞を発行し、毎日の中国での出来事や、イベント情報、読書コーナー、また恒例の四コママンガ、それから、連さい物の「中国物語」をのせ、無料で配信します。できれば広告主もさがして、広告をのせさせてもらい、ヒット数に応じた広告料をもらえたら良いと思います。

その前に、「中国社」の社名を商標登録して、キャラクター達をすべて意匠登録するという大変な作業をすませてからですが。

それから、次にそのキャラクターで、デコメールや待ち受け用の画像を作り、有料で配信します。できれば、アニメも作れるようになると、もっと良いと思います。

次に、市販の物に手書きでイラストを描いて、文房具や日用品等の商品を作り、ネットや電話注文で売ります。売れるようになったら、イラストはシールに印

刷して貼る等、作業を簡素化して、値段を下げ、注文が殺到するようなら、工場にたのんで大量注文に対応できるようにします。もちろん、手書きの高級商品も残して、「中国新聞」にのせ、ネットオークションで限定販売します。

夢は広がるばかりですが、ここで必要になってくるのがお金と人手です。そもそも「中国」は、姉と二人で作った国なので、会社は姉と共同経営にして、資金は今まで貯めたお年玉を二人で出し合ってパソコン代やソフト代、通信料等をまかさないです。「中国新聞」の広告や、画像配信がうまくいって、更に資金が貯まってくれば、商品開発にまわし、更にその商品の広告代わりに、「中国新聞」にけん賞として商品をのせ、募集します。広告にもなるうえに、市場調査もできるしくみです。

商品開発のあたりから、たぶん姉と二人では、手が回らなくなってくるでしょう。そこで、会社の収入に応じて、少しずつ人をやといたいと思います。

工場に商品をたのむ時には、資金が足りなくなることが考えられます。そこで、銀行や商工会議所等をあたって、「中国新聞」の実績をまとめ、資料として持っていく、お金を借りたり補助金をもらったりできたら良いと思います。

そうして、会社はどんどん大きくなり……と、トントン拍子にうまくいけばいいのですが。いいえ、うまくいかないことは今は考えないことにしましょう。

我が、「中国社」に未来あれ！！

